

施設栽培に、ぶどうという選択肢。

果実棚に、ポットでの根域制限と自動かん水を組み合わせ、土のない施設や空きスペースにも設置できます。ぶどうなどの高付加価値作物を、光や温度などの条件を確かめながら試験導入できます。棚は据え置きでも、移動式のモバイルグリーンガーデン（MGG）としても使えます。



自社農園（茨城県結城市）の果実棚。不織布ポットにかん水の配管をつないで育てています

3つの特長



01 ポットで根域を制限

地面に土を盛らず、不織布ポットで根の広がり制限して育てます。根の健全な成長と早期結実を促し、土のない施設内や舗装面にも置けます。



02 自動かん水と雨よけ

自社農園では、日射量に応じて自動で水を与える日射比例式のかん水システムを使っています。棚には雨よけも取り付けられます。



03 移動もできる構造

棚ごと動かせるので、施設内のレイアウト変更や、イベント会場への持ち出しにも使えます。据え置きで使う場合は、移動式にしくても構いません。

主な仕様

栽培方法	ぶどうなどの果樹を、不織布ポットで根域制限して栽培
設置場所	施設内、ハウス、空きスペースなど（地面に土がなくても設置できます）
移動方法	専用台車、フォークリフト、電動リフト（据え置きでも使えます）
雨よけ	取り付け可能（作物に雨が当たらない状態で栽培できます）
特許	果実棚装置 特許第7500122号、特許第7751346号

置いてみて、確かめる。

果実を付けたまま木ごと運び、運んだ先の会場でもそのまま体験に使えることを、イベントでの移動実証で確かめてきました。施設への導入は、規模や進め方をご相談の内容に合わせて決めます。

実績 いがしらリゾートアウトドア秋フェス2026



井頭公園（栃木県真岡市）の会場に設けた体験ブース



MGGでのぶどうの粒どり体験

木ごと運ぶ

自社農園（茨城県結城市）からトラックで運搬

実を付けたまま

果実を付けた状態で運搬・設置

運んだ先で

そのまま粒どり体験に使用

2026年9月26日（土）・27日（日）に実施しました。初日の雨の中でも、テントの下にMGGを並べて体験を続けました。2025年10月の駒沢オリンピック公園（東京都）に続く、イベント会場での移動実証です。

施設に置く場合



レタスなどを水耕栽培している施設の一角に棚を置き、ぶどうを試験的に育てる使い方です。

棚は据え置きでも使えます。移動式にするかどうかは、レイアウトを変える頻度など、導入先の目的に合わせて選べます。

屋内で栽培する場合の光や温度などの条件は、導入先と一緒に確かめながら進めます。

試験導入の進め方

01 お問い合わせ

Webのフォームまたはお電話で

02 条件の確認

設置場所、試したい品目、レイアウトを変える頻度を伺います

03 個別のご提案

試験の規模・期間・費用をご提案します

04 設置・試験開始

提案内容が決まった後に設置し、条件を確かめながら進めます

図面が固まる前の構想段階からご相談いただけます。



お問い合わせ 株式会社ヤマナカ アッシーリス事業部 TEL 0296-35-0567

お問い合わせフォーム <https://www.yamanaka-u.co.jp/contact.php>

MGGの詳しい説明 <https://www.yamanaka-u.co.jp/mobile-green-garden.html>



お問い合わせ



MGGの説明